

MIYATEEN XV

今日の心の空模様は？



宇都宮の高校生のための
読書情報誌 Vol.15



快晴 ～お出かけ日和～



『博士の愛した数式』

小川洋子／著 新潮社

家政婦として働くシングルマザーの杏子は、事故の後遺症で記憶が80分しかもたない博士のもとへ派遣される。博士が語る“数字の言葉”に困惑する杏子だったが、やがて杏子の10歳の息子も加わることで、ぎこちなかった日々が変化していく。

感想

数学嫌いな方にぜひ読んで欲しい本です!!中には難しい数式や定理がでてきますが、それらが物語にどう影響するのか、どのような意味を成すのか、博士の説明と共に考えていくのも楽しみの1つだと思います。(まる)



『100万回生きたきみ』(角川文庫)

七月隆文／著 KADOKAWA

「安土美桜は、100万回生きている。」
17歳の高校生として100万1回目の青春を送っている美桜は、100万回も生きたせいで、疲れ果て、すべてのことがどうでもよくなっていた。そんなある日、投身自殺を図ろうとした美桜は、同級生の光太に救われる。2人は惹かれあい…。偶然ではなく、運命。時空を超えた一途な愛の物語。

感想

RPG×恋愛のようなお話です。様々な時代を行き来するため考察が楽しいのと、「きみ」との一途な恋物語でキュンキュンするのとで2つの面白さがある物語です。そう、まさに小説界の「二兎(刀)流」!!(まる)



『遥かに届くきみの聲』(双葉文庫)

大橋崇行／著 双葉社

かつて天才子役と呼ばれた小宮透は、その過去を隠し高校生活を送ろうとしていた。しかし、偶然にも中学時代朗読コンクールで異彩を放っていた沢木遥と再会する。朗読部に勧誘されるも拒む透。その理由とは…。

感想

二人の過去を知ったとき、思わず涙してしまう一冊。また、朗読を通じて、様々な作品と出会い、読み手による捉え方の違いも感じられます。(minto)



『麦本三步の好きなもの』

住野よる／著 幻冬舎

麦本三步(20代)、図書館勤務の彼女の好きな物は朝寝坊とチーズ蒸しパンと、本と、漫画。出勤するまでは布団にくるまり、図書館には怖い先輩と優しい先輩とおかしな先輩がいて、叱られたり、感心させられたり、翻弄されたり、三步の日常にドラマチックなことなんて起こらない。ありふれた香ばしい日常たち。

感想

短編集なので、時間がない人でもスキマ時間にサクッと読める。まるで4コママンガのような話。三步は恋もしてきたし、酒も飲むし、ズル休みもする彼女の「当たり前」の日々。ゆるく読める本。(ういんく。)



『言葉屋』

久米絵美里／著 もとやまさこ／絵
朝日学生新聞社

小学5年生の詠子のおばあちゃんは、町で小さな雑貨屋さんをやっていた。しかしそれは表向きの顔で、おばあちゃんの本業は「言葉を口にする勇気」と「言葉を口にしない勇気」を提供する「言葉屋」だった!そのひみつを知った詠子は…。

感想

ネットやメールで傷つける言葉がたくさん飛び交う今、言葉の大切さをうたえる物語。自分が発する言葉について改めて考えさせられました。(霊乃)





鉛空 ～太陽の目隠し～



『「死んでもいいけど、死んじゃだめ」と 僕が言い続ける理由』



大空幸星／著 河出書房新社

「あなたのいばしょ」というNPO法人を運営している大空幸星さん。なぜ、彼がNPO法人を始めたのか、そして彼が今、私たちに伝えたいメッセージとは？読んだあなたの心もきっと救われるはず。

感想

私が精神的に辛かった時にこの本を読みました。涙が止まらなくて、少し安心して気が楽になった気がします。もし、心にモヤモヤがあるなら、ぜひ読んでみてください。(あずき)



『よるのばけもの』住野よる／著 双葉社

主人公・安達は気弱で普通な男子中学生。だが夜の間は、体がバケモノになり、身体能力も人間以上のものになるという体質を持つ。安達がバケモノの姿で学校に忘れ物を取りに行くと、いじめられているクラスの子・矢野さつきが居た。幾夜も会ううちに、昼間クラスである作戦を決行しようと意気投合する。

感想

いじめられないために、平均を装う・いじめに加わる、という中学校の教室の重たい空気感が伝わってきます。一冊の本が一つの教室になって、読者がカーストや人間関係を一望できる「神」になれる作品でした。(Lune)



『ぼくのまつり縫い 手芸男子は好きっていけない』

(偕成社ノベルフリーク)

神戸遥真／著 井田千秋／絵 偕成社

実はお裁縫が大好きだけど、恥ずかしいから周囲には隠している針宮優人。ひょんなことをきっかけに優人は被服部の助っ人となる。被服部での活動を通して、優人は自分自身の「好き」と向き合っていく。

感想

私も中学生の時、部活で裁縫をやっていて、男子部員もいました。懐かしい思い出と共に「好き」と胸を張って言える勇気をもらいました。(あずき)



『ボッコちゃん』(新潮文庫)

星新一／著 新潮社

日本SF史上最も有名な短編小説と評される「ボッコちゃん」は、昭和時代に初出したとは思えない近未来的な物語です。

バーの接客をする「人造美人」はまるで現代のAIロボットのように。人造美人を取り巻く人間の愚かな言動による意外な結末とは…。

感想

「ボッコちゃん」は全体としてブラックユーモアが光る作品が多く、短く淡々とした文章でありながら、読者に深く考えさせられるラスト、伏線回収、騙された感が最大の魅力なのではないかと思います。星新一作品、激推しです。(ねぎ)

No
Image

『汚れっちまった悲しみに……』

(影絵ものがたりシリーズ4)

中原中也／著 石井昭／影絵 福田百合子／監修 新日本教育図書

病気がちで、30歳という若さで亡くなったが数多くの作品を残した詩人・中原中也の傑作集。タイトルになっている「汚れっちまった悲しみに……」は、決して明るくありませんが、本文はリズムカルな詩です。

感想

幼い頃、某教育番組で、ジオラマを背景に詩や童歌などを歌う、というコーナーがあり、大好きでした。そこでは詩も朗読ではなく、歌になっていました。なので個人的には、暗さだけでなく懐かしさも感じます。(Lune)



『ロミオとジュリエット』(白水Uブックス10)

ウィリアム・シェークスピア／著 小田島雄志／訳 白水社

この作品、名前は知っていても内容はぼんやりとしかわからない、そんな方も多いでしょう。この作品は一言で表すならば「悲劇の恋愛」といったところでしょう。現代でもよく用いられるテーマですが、やはり他作品とは一線を画すものがあります。というより、この作品がそういったジャンルの先駆けとも言えるでしょう。

感想

私のこの作品を読んだ感想は、「よくわからない」でした。時代が違うため考え方も違い、さらには恋愛に縁がないためです。しかし、だからこそこの作品に深みが出るのでしょう。ある種の様式美とも言えるかもしれません。勘違いによるすれ違いと禁断の恋を描いた本作品、一度手に取ってはいかがでしょうか。(文ぎつね)



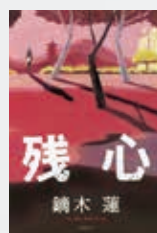
『ノルウェイの森 上・下』

村上春樹／著 講談社

ワタナベは、ドイツ行きの飛行機を降りビートルズの「ノルウェイの森」を耳にして、青春時代を回想する。高校生の頃、親友キズキは自殺した。上京し、大学生になったワタナベは、東京の電車内でキズキの元カノ・直子に遭遇。その偶然から直子との距離が縮まっていくが、直子の不調により、ワタナベの人間関係は一変する。

感想

村上春樹自身も、この小説は万人受けする小説ではないといった旨の発言をした。人との出会いに流されがちな主人公は、何を考えているのだろうか？と思った。(Lune)



『残心』

鏑木蓮／著 徳間書店

京都の地元情報誌の記者、国吉冬美は、尊敬するルポライター・杉作舜一が京都に来ていると知る。次回作の取材をしていた杉作はある事件を目撃する。事件の真相を追う2人は、やがて悲しき真実を知ることになる。

感想

現代社会における問題の数々。のしかかる重圧。自分なりの正義。自分はどうしていくべきか、考えさせられる1冊。(minto)



嵐 ～溢れ出す思い～



『告白』

湊かなえ／著 双葉社

我が子を校内で亡くした女性教師が、終業式のHRで犯人である少年を指し示します。ひとつの事件を、モノローグ形式で「級友」「犯人」「犯人の家族」からそれぞれ語らせ、真相に迫ります。

感想

本屋大賞の本ということもあり、本屋さんおすすめだけあって読み易かったです。読み終わった後のゾクゾク感は、今までどの本にもなかったものだと思います。（こあら）



『ケーキの切れない非行少年たち』

（新潮新書） 宮口幸治／著 新潮社

少年院勤務の精神科医である作者は、収容された少年たちの中にケーキを等分できない子がいると気づく。認知機能の弱さにより起こる問題が社会の中ではうまく「見えない」ことを伝える、衝撃のノンフィクション。

感想

平均的な知能レベルと知的障害のレベルの間に「境界知能」というものがあるそうです。そういうものを抱えた人々がどうしたらよりよく生きていけるのか。筆者の様々な実体験を通して、社会について考えるきっかけとなる1冊です。（な!）



『思わず考えちゃう』

ヨシタケシンスケ／著 新潮社

イラストレーター、絵本作家のヨシタケシンスケさんが、普段から書き溜めていた「思わず考えちゃう」スケッチの数々を、本人が解説する自身初エッセイ。何気ない日常のちょっとした哲学には、とても深いものがあるのです。

感想

とても考えさせられる本でした!ヨシタケさんの着眼点がとてもおもしろく、視点を変えると普段の何気ない日常の形がガラッと変わることによって改めて気付かされました。（やきそば）



『精霊の守り人』

上橋菜穂子／著 二木真希子／絵 偕成社

女用心棒バルサは、帝の妃から内密に息子を守ってほしいと依頼を受ける。皇子チャグムの命を狙うのは彼の皇国だった。しかし、それ以外にも彼は異世界の生物たちにも目をつけられていて…。

感想

バルサとチャグムが、互いに少しずつうちとけ合いながら旅をする様子は心が温まり、勇気をもらえる作品でした。（やきそば）



『銀河鉄道の夜』（ハルキ文庫）

宮沢賢治／著 角川春樹事務所

貧しい少年ジョバンニが、級友を救おうとして溺死した親友カムパネルラとともに、夢の中で銀河鉄道に乗って宇宙を旅するという幻想的な作品。

感想

美しく、繊細で切ない物語です。不思議と銀河鉄道に乗りたくなくなります。幻想的でどこか悲しみが垣間見える作品だと思います。（こあら）



『あらしのよるに』

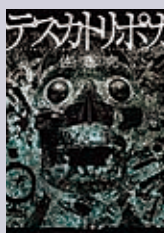
（大型版 あらしのよるにシリーズ①）

きむらゆういち／著 あべ弘士／絵 講談社

ある嵐の夜に、壊れかけの山小屋でオオカミのガブとヤギのメイが会おう。真っ暗闇、鼻も利かない中で、お互いの正体を知らないまま友情を芽生えさせる二匹。しかし翌日、明るい場所で再会してみると…?

感想

二匹の友情に思わず心動かされました。最後の数ページは感涙必至。高校生になってから改めて絵本を読むと、率直な言葉と素朴な挿絵から得るたくさんのメッセージにはっとしてしまいます。（な!）



『テスカトリポカ』

佐藤究／著 KADOKAWA

麻薬カルテルの縄張りを奪われた密売人バルミロは、資金調達法として子どもの心臓売買に目をつけた。日本での事業を始めた彼は、天涯孤独の少年・土方コシモの才能を見込み引き入れる。何も知らない人々を巻き込んだ犯罪の背後には、恐るべき「アステカ」の神の影が…。愛と狂気、そしてそれを生み出す神とその「奴隷」の物語。

感想

読み始めたら止まらない!国境を越えた犯罪に家庭問題、麻薬、臓器売買、さらには人を狂わせる程に魅了する遙か昔の神々…。怖くて仕方がないのに魅力的、本当に心臓を鷲掴みにされたような気分が夢中になりました!（きむち）





雨上がり ～空の笑顔～



『12の贈り物』

世界でたったひとりの大切なあなたへ』

シャーリーン・コスタンゾ／作
黒井健／訳・絵 ポプラ社

母親である著者が自身の子供たちへ綴った「12のメッセージ」。誰もが生まれた時平等に授かる贈り物についてやさしい絵とともに語りかけてくれる絵本。

感想

綺麗事かもしれないけど、人は誰もが少なくとも神様には愛されて生まれてきたのだと思わせてくれる本だと思いました。(霊乃)



『世界は「」で満ちている』

(カラフルノベル)

櫻いいよ／著 げみ／イラスト
PHP研究所

中1の由加は、仲のよい友達と楽しい毎日を過ごしていた。ところがそんな毎日が、ある日を境に一変する。悪い噂を流され、学校内で孤立してしまった由加は、同じく孤立していた幼馴染の悠真と話すようになり…。

感想

「由加は毒にはなるなよ。」この悠真の言葉は、私にとっても響きました。「毒」とは何なのか、どうして由加にそう言ったのか、考えながら読むと「」で満ちている世界がちよっと違って見えるかもしれません…。

(まる)



『グッバイ宣言』(MF文庫J)

三月みどり／著 アルセチカ／イラスト
Chinozo／原作・監修 KADOKAWA

何事も無難に、ほどほどに、単位を落とさない程度に登校する、桐谷翔。そして、天真爛漫で校内一の有名人の七瀬レナ。

正反対な性格の二人が出会い惹かれあい…青春ラブコメ。

感想

これは不登校気味だった桐谷がハリウッド女優を目指す七瀬によって変わっていくという話です。七瀬が彼女のアンチを言いくるめる場面ではスカッとします。原曲もとてもよいのでぜひ聴いてみてください！

(にいまる)



『星の王子さま』

サン＝テグジュペリ／著
内藤濯／訳 岩波書店

砂漠に不時着した飛行士が、どこかの星からやってきた小さな男の子の王子さまと出会う。大人になってもどこか子供の頃の気持ちを残した飛行士の“ぼく”は、王子さまの話や彼と過ごすなかで、生きる上で大切なことを思い出す。けれど王子さまは帰らなければならず…。

感想

誰もが子供の頃に持っていた価値観や、気持ちが、大人になる過程の中で消えていってしまう。けれど、それらは生きていく上では必要なものなのということ、この本から感じた。本当に大切なものは目に見えない。(ういんく。)



『リアルフェイス』(実業之日本社文庫)

知念実希人／著 実業之日本社

金さえ積みめばどんな要望にも応える天才美容外科医・柊貴之に舞い込む奇妙な依頼の数々。

顔を変えることは罪なのか？

依頼主たちが整形を求めた本当の理由とは…。いくつもの章が絡み合いながら、最大の謎が説き明かされる！

感想

初めは表紙の怪しげな雰囲気から読むことに抵抗感を覚えつつも、サイコパシ的な柊貴之の一言一言にゾクゾクさせられ、気づけば沼にハマっています。美容整形ミステリーという斬新な切り口で読者に問いかける一冊です。(ねぎ)





夕焼け～黄昏の空～



『恋する寄生虫』(メディアワークス文庫)

三秋縋／著 KADOKAWA

失業中の青年・賢吾は、不登校の少女・ひじりの社会復帰に向けたリハビリを手伝うよう頼まれた。時間をともにする中で、ふたりは恋に落ちる。しかし、彼らは知らなかった。二人の恋が、“寄生虫”によって操られた「ニセモノの恋」に過ぎないのだと。やがて、ふたりは薬を飲むことを決意する。この愛は本物かまがい物か――。

感想

胸が締め付けられる哀しみ、そしてぞくりとするような恐怖を同時に感じた。自分の感情は、ほんとうに自分だけのものなのだろうか、と。けれど、たとえ絶対的な意思ではなかったとしても、私はそれを信じたい。(きむち)



『君は月夜に光り輝く』(メディアワークス文庫)

佐野徹夜／著 KADOKAWA

高校1年生の岡田卓也は、「発光病」という難病に侵され入院しているクラスメイトの渡良瀬まみずのお見舞いをまかされる。余命わずかな彼女が「死ぬまでにやりたいこと」があることを知り、その願いを叶える手伝いをするを約束する。2019年に映画化もされた、切ないラブストーリー。

感想

作品中に出てくる中原中也の詩。「愛するものが死んだ時には、自殺しなきゃありません」私には意味が分かりませんでした。ですが、読み進めていくうちにこの詩の深さに気づき、とても感動するラブストーリーでした。(さ湯)



『君はきっとまだ知らない』

(スターツ出版文庫) 汐見夏衛／作 スターツ出版

「私は1年A組の幽霊だ。」

6月のあの日以来、クラス中から無視され、心を殺す日々を過ごしていた光夏。2学期のある日、疎遠になっていた幼馴染みの千秋、春乃、冬哉が声をかけてくる。自分の辛い状況を隠しながら接していた光夏だったが、3人の優しさに触れ、やがて心を溶かしていく。

感想

伝えたい事やしてあげたい事があるならば、今やらなければならないと考えるきっかけになる物語です。「君はきっとまだ知らない」。この「タイトルに隠された衝撃の真実」とは何なのか、ぜひ考えてみてください。(まる)



『この冬、いなくなる君へ』

(ポプラ文庫ピュアフル) いぬじゅん／著 ポプラ社

文具会社に勤める菜摘は、仕事もプライベートもうまくいかず、生きづらさを感じていた。そんなある日、会社で一人残業中に火事に巻き込まれてしまう。あやうく命を落とすところを、篤生と名乗る人物に助けられ、「この冬、君は死ぬ運命だった」と告げられる。篤生は一体何者なのか。菜摘の運命とは…。

感想

菜摘がだんだんと変わっていく様子や篤生の謎を見ていると、とても面白くて一気に読んでしまいました。ラストのどんでん返しでは衝撃を受けました。泣けます。(にいまる)



『あっこと僕らが生きた夏』

17歳女子マネージャーがナインに託した、命のパトン

有村千裕／著 講談社

大分県大分市の楊志館高校の野球部のマネージャーだった、あっここと大崎耀子。誰よりもグラウンドを愛していた彼女を襲ったのは「がん」だった。再びグラウンドに戻るため、あっこの闘病生活が始まる。

感想

私と同世代のあっこが必死に生きる姿に感動しました。また、今、生きていることの喜びや命の尊さを改めて感じました。あっこが最後に迎えた運命に思わず視界がゆがんでしまいました。(あずき)



『夜が明けたら、いちばんに君に会いにいく』

汐見夏衛／著 スターツ出版

過去のある事情から、学校では誰からも好かれる優等生を演じ、家庭でもいい子でいようとする丹羽茜。しかし、高校2年生になり、同じクラスになった深川青磁に「お前のこと、大嫌い」と言われショックを受ける。表情を隠すため、マスクを外せなくなり、心が壊れかけていく茜。そんな茜を救ったのは青磁だった。青磁にはある秘密が…。

感想

汐見さんの表現の仕方や描写がとてもきれいで物語にずっと引き込まれました。自分を表に出せない、他人の目を気にしてしまう方が変わるきっかけになる物語だと思います。映画化もされているのでぜひ見てみてください。(まる)

『100日間、あふれるほどの「好き」を教えてくれたきみへ』



永良サチ／著 スターツ出版

複雑な家庭環境の中で生きてきた海月。ある日、追い打ちをかけるように、脳腫瘍で余命3か月と宣告される。誰にも頼らず、一人死を覚悟した海月の心を救ったのは、クラスの中でも人気者の佐原悠真だった。

感想

登場人物、特に悠真くんの人柄に皆さんもトリコになるはずです!!周りがどんなにバカにされても海月ちゃんを愛し続けた一途な心が格好良いと思いました。またその影響で周りの人が変わっていく姿も印象的です。(まる)



『二番目の悪者』

林木林／著 庄野ナホコ／絵 小さい書房

「考えない、行動しないという罪」傲慢な金のライオンがその国の王様になるために、ライバルの銀のライオンの悪い噂を流してしまう。思い通りに王様になれたものの、国はたちまち荒れ果ててしまった。果たして本当に金のライオンだけが悪かったのだろうか…。

感想

小さな噂がSNSで独り歩きして、大きなニュースになる事が多い現代、身につまされる一冊です。私達の生活にはSNSが今や必要不可欠な存在です。こんな時代だからこそ、大人も読むべき絵本だと思います。(ねぎ)



星空 ～星空に願いを～

START!

星が好き？

YES

NO

活字は好き？

NO

YES

文系？理系？

文系

理系

海外文学は好き？

NO

YES

『星の辞典』

柳谷紀一郎／著
雷鳥社



星にまつわる言葉だけを集めた辞典。美しいイラストや写真とともに、たくさんの言葉に触れることができる。

感想

ただ星の名前や星座について書かれているわけではなく、ギリシャ神話や銀河そのものについても解説されています。1冊で何度も楽しめちゃう！

(な!)

『ムラムラする宇宙』

吉田直紀／著
学研教育出版



宇宙に関する基本的な5つの謎に若き宇宙物理学者の筆者が答える。ムラムラするほど面白い宇宙論入門！Q&A方式も交えながら、(文系にも)分かりやすく宇宙を解説する。

感想

宇宙の基本的な謎についてよく知ることができます。宇宙の進化の過程やダークエネルギーについての項が面白かったです。分かりやすくおもしろい語り口なので、私のような文系諸君にもおすすめ！

(な!)

『あなたのための短歌集』

木下龍也／著
ナナロク社



読者から寄せられたリクエストに、筆者が短歌で答えていく。リクエスト、それに付随したエピソード、短歌の返事の内容、全てが重なって温かい時間をつむいでいる。今をときめく人気歌人・木下龍也の有名なシリーズ。

感想

見ず知らずの「あなた」のための短歌が、不思議と自分の心にもしみわたっていく、そんな感覚を味わえる本です。まずは読んで！木下さんの短歌は高校生に絶対刺さります。

(な!)

『しろがねの葉』

千早茜／著 新潮社



戦国時代末期、貧しさで夜逃げをするも見つかってしまい、幼い少女、ウメは両親と別れてしまう。一人ぼっちのウメは銀山にたどり着き、凄腕の山師、喜兵衛に拾われる。ウメは小柄で夜目が利くので、暗く狭い銀杭はピッタリだった。だが、銀山は危険の多い男達の仕事場。残酷にも、時間という運命が二人を襲う。

感想

率直に、この時代の人々は力強い、と感じました。せわしく銀山で働く鉱夫、それを養う家族。切っても切り離せない鉱山病や崩落。村自体はシルバーラッシュで好景気。だが一人一人の生活は苦しい。

(Lune)

『Alice's Adventures In Wonderland』

Lewis Carroll／著
Harper Collins

No
Image

退屈だったアリスは、懐中時計を持ってチョッキを着た奇妙なウサギを見かけた。好奇心からついていってみると、穴に落ちて不思議な世界へ！そこでアリスは、体が縮んだり大きくなったりする薬や、トランプの女王など個性豊かな人物と出会い、ファンタジー満点の冒険をする。元々は作者が教え子に話して聞かせたもの。

感想

アリスの冒険は、ファンタジーやメルヘンというより、カオスといったほうが近いかもしれない。訳しながら原作で読むのがオススメ。

(Lune)





霊乃

【編集長】
宇都宮北高等学校
紹介文を書くのはもちろん、紹介本を選ぶのも大変でした。
でも楽しかったです。



ねぎ

【副編集長】
宇都宮短期大学附属高等学校
小学生の頃から憧れだったMIYATEENの一員になってとても光栄です。



さ湯

【書記】
宇都宮短期大学附属高等学校
本好きな仲間と編集委員の活動ができてとても思い出になりました。



minto

【書記】
宇都宮短期大学附属高等学校
様々なジャンルの本と出会い、趣味の幅が広がりました。



Lune

【書記】
星の杜高等学校
選書するのが楽しかったです。



な！

【イラスト】
宇都宮東高等学校
小学生の頃からあこがれていたMIYATEEN。高3にして初参加できたことがとても嬉しいです。



ういんく。

【イラスト】
宇都宮工業高等学校
とても貴重な経験をさせていただきました！



やきそば

【イラスト】
宇都宮中央女子・宇都宮中央高等学校
イラストも本の紹介もやりがいがありとても楽しかったです！



にいまる

【イラスト】
宇都宮女子高等学校
自分の得意分野を活かしてよかったです。



まる

【イラスト】
宇都宮東高等学校
多くの魅力的な本と出会えました。楽しかったです。
ありがとうございました。



あずき

【ページリーダー】
宇都宮北高等学校
様々な本に出会えて楽しかったです。



文ぎつね

【ページリーダー】
宇都宮高等学校
今回が初めての参加です。
暇を縫っての制作でしたが、楽しかったです。



こあら

【ページリーダー】
作新学院高等学校
本好きの人と交流を深めることができ、視野を広げることができました。



きむち

【展示】
宇都宮東高等学校
2年連続で編集委員を務めさせていただぎました。少し大変でしたが、とっても楽しかったです！



編集委員募集

あなたも本の紹介をしてみませんか？次号Vol.16でも高校生編集委員を募集します。本好きの高校生の皆さん、ぜひご参加ください！詳しくは中央図書館まで。

・ペンネーム
・役割[担当]
・学校
・感想

読めば
愉快だ
宇都宮
UTSUNOMIYA

宇都宮の高校生の
ための読書情報誌

MIYATEEN Vol.15



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

発行 令和6年2月 編集 MIYATEEN編集委員
ご意見・お問い合わせ 〒320-0845 宇都宮市明保野町7-57 宇都宮市立中央図書館 TEL028-636-0231